

最低運賃 & 一筆書き乗車で JR 東京近郊区間内の 有名立食い蕎麦三店を巡る小旅行記

江戸ソバリエ・ルシック 糟谷健司

「JR 東京近郊区間の一筆書き鉄道旅行」をご存じでしょうか？

JR 東京近郊区間での最低運賃 160 円（乗車距離 3 Km 迄）で 200 km も 300 km も、コースによっては 1,000 km も鉄道で旅をするというものです。

これは、JR 旅客営業規則で、

「大都市近郊区間内（東京近郊区間もその一つ）のみを普通乗車券で利用する場合は、重複しない限り乗車経路は自由に選べるが、実際に乗車する経路にかかわらず最も安くなる経路で計算した運賃で乗車することができる。ただし、途中下車はできない。」

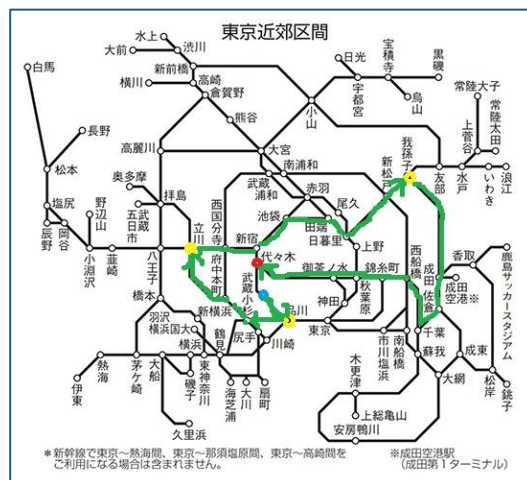
との規定されていることによります。

今回は、この制度を利用して JR 東京近郊区間内にある有名な立食い駅蕎麦の食べ歩きの一筆書き鉄道旅行を企画しようと考えました。

近年は、駅中のアーケードに出店している立食い蕎麦屋さんは増えていますが、ホームにある立食い蕎麦屋さんが種々の事由により少なくなってきました。駅の立食い蕎麦と言えばやはりホームで電車の出発や到着を見ながら食べる雰囲気は何ととっても捨てがたいものであるので、JR 東京近郊区間の一筆書き鉄道旅行に組み合わせて、同区内にある有名なホームにある立食い蕎麦を三軒（品川駅／常盤軒、立川駅／清流そば、我孫子駅／弥生軒）を選び、食べ歩きと一筆書き鉄道旅行を組み合わせた企画を立案しました。

（旅程）

渋谷【**出発駅**】→（山手線・内回り）→品川【**一軒目／常盤軒**】→（横須賀線）→武蔵小杉→（南武線）→立川【**二軒目／清流そば**】→（中央線）→新宿→（山手線・外回り）→日暮里→（常磐線）→我孫子【**三軒目／弥生軒**】→（成田線）→成田→（成田線・総武線快速）→錦糸町→（総武線）→代々木【**到着駅**】



この企画に賛同して、参加を表明してくれた A 氏と O 氏と 4 月 21 日渋谷駅で待ち合わせて、この鉄道旅行はスタートしました。

まず、渋谷駅で最低運賃 160 円の切符を購入。渋谷から代々木までの近くて長い旅程の小旅行に出発！



9 時 54 分渋谷発山手線内回りに乗車、品川駅 1 番線ホームに到着。1 番線ホームの大崎駅寄りにある階段の裏手に目指す 1 軒目の「ホームにある立食い蕎麦／常盤軒」がありました。

「常盤軒」では、蕎麦ではなく「品川丼」と言う、かき揚げ天ぷらをご飯の上にのせた丼ご飯（蕎麦汁を薄めた澄まし汁とお新香付き）を食べました。

何故に蕎麦を食べないで、どんぶり飯を常盤軒で食べるのかというと、この店は立食い蕎麦の店ではありますが、品川丼とかカレーライスとかのご飯ものが美味しいとの評判の店であり、筆者もこの店では蕎麦よりもご飯ものを食べる人が多いのです。（蕎麦も美味しいです。）



【常盤軒の外観】



【品川丼】

以前は 1・2 番線ホームで山手線内・外回りの 2 方向電車が止まるホームでしたが、品川駅の改革で 2 番線ホームが無くなってしまい、現在は 1 番線の山手線内回りのみのホームに変わってしまったので、お客の立ち寄りが少なくなってしまったように感じます。

無くならないで、何とか残ってもらいたい店です。

品川駅から横須賀線で武蔵小杉駅に行き、南武線に乗り換えて立川駅に向かいました。

二軒目の「ホームにある立食い蕎麦／清流そば」は立川駅の青梅線ホーム（名称は「奥多摩そば」になっている）、中央線上り 3・4 番線ホーム、中央線下り 5・6 番線ホームにそれぞれ出店していますが、5・6 番線ホームの高尾寄りにある「清流そば」店に入りました。

名物の「おでん蕎麦」の食券を買い、おでんの種類を迷いましたが、玉子とがんもどき1個ずつにして注文をしました。おでん蕎麦の蕎麦はふつうの立食い蕎麦の味・食感で、蕎麦つゆが甘めでした。おでんが入っているからかもしれません。蕎麦におでんという取り合わせが珍しく、以前に四国中央市で食べたうどん店でおでんとうどんを一緒に食べましたが、蕎麦とおでんの取り合わせは、関東では珍しいのではないのでしょうか。



【清流そばの外観】 【おでん蕎麦のポスター】



【おでん蕎麦／がんもどき＋玉子】 【おでん蕎麦／さつま揚げ】 【おでん蕎麦／がんもどき】

同行した A 氏はおでん蕎麦のさつま揚げ、O 氏はおでん蕎麦のがんもどきを食べられていました。

この店は、東京郊外の奥多摩地方の入口であり特急停車駅の立川にあるので、品川駅／常盤軒と比べて、まだまだ需要があるのではないかと感じました。

立川駅から中央特快に乗り新宿で下車。新宿で山手線外回りに乗り換えて、日暮里まで行き、再度日暮里で常磐線土浦行きに乗り換えて、江戸川を渡り、千葉県に入って我孫子駅に着きました。

我孫子駅では、目指す三軒目の「ホームにある立食い蕎麦／弥生軒」があります。降車した常磐線下りホームには「弥生軒 6 号店」がありましたが、昼時で混雑していたので、常磐線上りホームの中央付近にある「弥生軒 5 号店」に行くことにしました。

この「弥生軒」は、山下清画伯がアルバイトをしていた店として有名であり、名物は唐揚げ蕎麦です。井からはみ出るようなでっかい唐揚げがトッピングされていると聞いていましたが、実物はそんなに大きくなく、多少期待外れでした。

唐揚げ蕎麦の汁は出汁が効いていて醤油の風味が舌に残り美味しい汁でした。蕎麦は太めの麺で割粉比率が多い様に感じましたが、唐揚げが絶妙に蕎麦＋汁になじんでいて、美味しかったです。



【弥生軒外観】

【唐揚げ蕎麦】

三軒の立食い蕎麦店をはしごして、お腹も満たされて、我孫子駅から乗った成田線成田行き車内では、単線運転の単調さも相まってお休みタイムとなりました。

成田駅から引き続き成田線千葉行きに乗り換えて、千葉駅構内でコーヒータイム。

千葉から総武線快速で錦糸町に行き、錦糸町で総武線に乗り換えて、目的駅の代々木駅に16時54分に到着しました。

通常、山手線で4分で着く渋谷駅から2駅目の代々木駅まで、たどり着くのに7時間かかる小旅行でした。

総乗車キロ数222.8 km（東京－掛川間の鉄道距離に相当）、7時間の東京都と千葉県の小旅行で、掛った費用は乗車券160円、食費（3軒計）2,150円で合計2,310円でした（千葉駅でのコーヒー代は除いて）。

安い費用で、手軽な小旅行を味わえ、美味しい蕎麦や丼を食べられて、とても楽しめました。

（後記）

秋葉原駅に有名なホームにある立食い蕎麦店があるので、最後の総武線で秋葉原駅を通った際に「秋葉原の立食い蕎麦も食べていきますか？」と冗談まじりでA氏・O氏に聞きましたが、皆がとても食べられるような状態ではなく、選択する駅立食い蕎麦店を三軒に抑えておいて良かったと思いました。お腹的にもとても満足した旅でした。

以上

※ 本稿は、杉並三田会 HP／「杉並の風」に掲載した(2026年4月21日)「**最低運賃&一筆書き乗車で JR 東京近郊区間内の有名立食い蕎麦三店を巡る小旅行記**」を修正しました。